

★認定調査員のための情報通信★あなたの力になりたいくて…

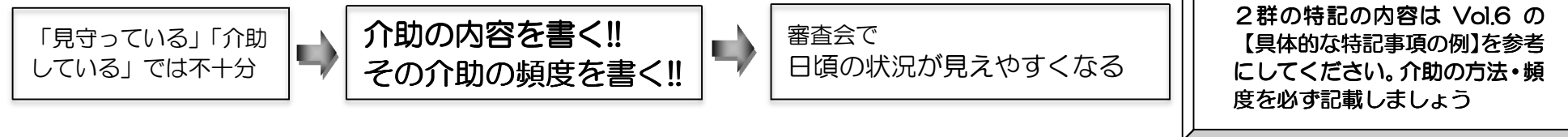
# あかべえ通信 2014.10.31 発行 Aizuwakamatsu city

みなさん、こんにちは！今回は間をあげずに登場です。なぜならお伝えしなくてはいけない情報を持っているからです。(笑)さて、前回からのシリーズもの、要介護認定適正化事業の「適正化に向けての協議」の内容について今回もお伝えしようと思います。なるべく具体的にわかりやすくお伝えするつもりですが…ご意見等あればいつでもご連絡くださいね！  
本日はハロウィーンです♪調査票、ちゃんと書いてくれないとイタズラされちゃいますよ～♪ q(^~^q) (\*^o^)/\(^~^\*)

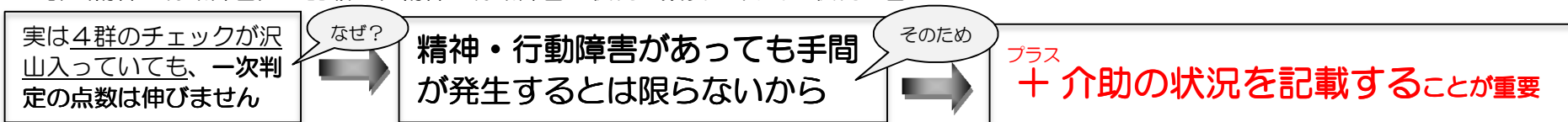
## ◎ 7回目の内容は…「適正化事業・調査内容の協議について【第2回】本人状況+周りの介助の手間を書く！」

今回の内容も前回に引き続き、特記事項の記載のしかたについての内容になります。テーマは「本人よりも周りの手間を書く！」とありますが、審査会委員のみなさんが特に2群・4群の特記事項の記載に何を求めているのか、という点を整理するとわかりやすいのかと思います。その中でも4群は判断に迷ったり、大変な状況だから伝えなくちゃ、と項目外の内容を書いたり、調査員さんも難しさを感じている項目だと思います。**記載しやすく、審査会委員にも伝わりやすく、判断しやすい調査票**を目指していきましょう！

### ① 2群（生活機能の特記について）の記載は、介助の内容と頻度を必ず書く

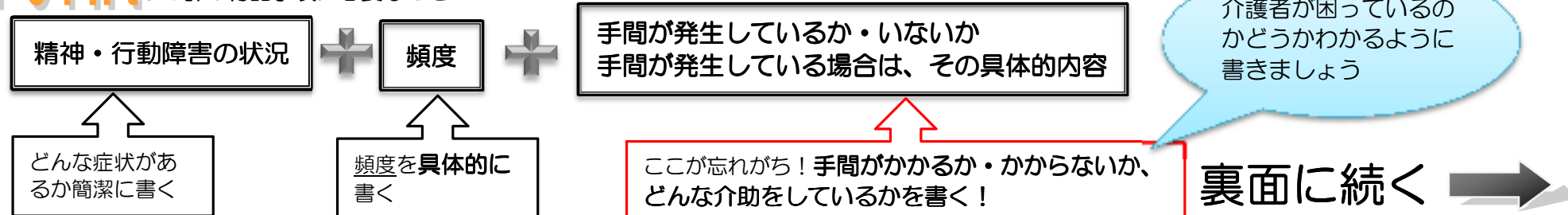


### ② 4群（精神・行動障害）の記載は、精神・行動障害の状況と頻度<sup>プラス</sup> + 介助の状況を書く



## Point

※4群の特記事項に必要なこと



③ どのように書けばわかりやすい？

【A：よくある特記事項の事例】

4-5 (同じ話をする)	娘がくると昔の話を何度も繰り返して話すため、娘は疲弊している。
--------------	---------------------------------

◎上記の特記事項のどこが不十分でしょうか？

その1：具体的な頻度がない・・・「娘がくると」いつ、どの位の頻度でくるのかわからない。

その2：手間の状況が書いていない・・・大変そうですが、具体的にどのような対応をしているのか、そもそも対応が必要な状態なのか判断できない。

【B：わかりやすい特記事項の事例】

4-5 (同じ話をする)	<b>週に3回</b> 娘がくる度に、昔の話を何度も繰り返して話すため娘は疲弊している。 <b>本人のそばについて話を聞かないと聞いてくれないと言って更にしつこく話をするため、ある程度側についている必要があり、手間になっている。</b>
--------------	--

4-5 (同じ話をする)	<b>週に3回</b> 娘がくる度に、昔の話を何度も繰り返して話す。 <b>娘も慣れており上手に話を聞き流しながら対応しているとのことで、聞いていて疲れるとは話すが介護の手間はあまりかかっていない。</b>
--------------	---

◎上記のように、同じ頻度で同じ精神・行動障害が現れても、イメージする介護の手間の時間に差が出てきます。そのポイントは、手間の状況を書く！こと。

## まとめ

審査会で知りたいのは  
**症状と頻度、**  
そして一番必要なのは、**介助の手間の状況**

このポイントを上手く  
伝えるために・・・

審査会に介助の状況が伝わるように

- ① まず「どのような症状」が「どの位の頻度で発生しているか（どのくらいの頻度で確認できるか）」を記載する。
- ② その後に、「どのような介助の手間がかかるか（かからないか）」を記載する

発行元：会津若松市役所高齢福祉課介護保険給付グループ 担当：木下&梅津

TEL0242-39-1242 FAX0242-39-1431

会津若松市役所 HP <http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

⇒介護保険⇒要介護認定⇒認定調査員のための情報通信

Vol.7

